

■児童・生徒の学力の状況

○国語科における継続的な朝学習の取組と、校内研究の成果により教科書を読む力や自分の意見を書く力が伸び、令和6年度の「全国学力・学習状況調査」の結果でも平均正答率76%、書くこと81.7%、読むこと75.1%と高い水準が得られた。話す力について今後指導改善を図りたい。

○算数科においては、基礎基本の徹底を重視した結果、領域A、Bのポイントが上がったが、データ活用力、思考力・判断力・表現力におけるポイントが都より低いポイントとなった。基礎的な力から導き出す解についての対話的な学びを指導に取り入れていく必要がある。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

○児童が主体的に考える時間と、学んだことを振り返る時間が十分に確保できていない。

○対話的に交流する場面を活かし、さらに自身の考えを再構築する場面を工夫する必要がある。

○その授業でどんな力を付けるかを明白にした学習活動計画の工夫や教科書を読み込んだ教材研究の必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○「深く考える子」の育成を重点とし「板橋区授業スタンダード」「中台小授業スタンダード」を実践し、読み解く力の向上、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得のための、指導の充実と改善を図る。

○問題解決型学習・協働学習・習熟度別学習・少人数学習指導など指導方法を工夫し、個性や発達段階に応じた学習指導や支援を生かし、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力を育む。

○「MIM」を1・2年生で実施し、読む力の基礎的なつまづきを見付け多重層な教材を使用して解消する。

○Hyper-QUやRST等の結果を分析し児童指導や学習指導に活用する。

○一人一台端末を活用した家庭学習習慣の定着を図る。

○「どくしょのあしあと」や年3回の読書週間、よみっこさんの読み聞かせ等を通して読書習慣の定着を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○授業に対する児童の学習活動のめあてを明確にし、学習の見通しをもたせ、振り返りの中で自分の学習に対する自己評価を行う。 ○児童が自身で教科書を読み取り、課題を解決する時間を確保する。 ○協働学習によって考えをまとめたり、広げたり、深めたりできるよう一人一台端末を活用する。	○年間の通して国語科の読みを通して「読み解く力」の育成についての指導法を改善し、児童の読みの力を伸ばす。 ○授業の中にInput・Think・Outputを意識した活動を入れ、思考の時間の確保と表現力の向上をめざす。 ○月1回全学年朝学習で「書きブリ」を実施し、自分の考えをもたせ伝え合う力を高める。	○課題を解決する学習を通して、自分の価値観を高め、自己の生き方を探求していく授業を展開する。主体的に判断したり、ねばり強く考えるたりすることにより、他者と共生する資質・能力を育成していく。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○「さくら草学びのエリア」として若木小学校・中台中学校、「特別支援学級における小中一貫交流エリア」として上板橋第三中学校との連携を図り、指導の接続を実施し、地域教育基盤の確立のために学校便り、学校公開、HP等での積極的な情報発信を行う。 ○自然豊かな中庭がある教育環境と20年以上続く花壇及びさくら草の栽培活動を生かして、自然を大切に、地域の人とのつながる郷土愛を養う教育活動を大事にする。	○総合的な学習の時間における指導では、教科の既習事項を生かした探究的な学習活動を展開する。また、ESDやSTEAM教育に関連する内容をつなげて児童のOutputの学習活動を充実させる。 ○教育内容の質の向上に向けて、子どもたちの姿や地域の現状等を探り、身近な課題に気付かせ、よりよい解決策を導く授業を展開する。 ○教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源を活用しながら、効果的に組み合わせていく。	○ICT支援員を積極的に活用し、授業等におけるICTの利活用を進める。 ○習熟度に応じた課題に応じた教材・環境を工夫し、個別最適な学びを実現させる。 ○ペアや小グループ、全体と様々な学習形態を多く取り入れながら、自分の考えと比較したり組み合わせたりして自分の考え広げたり深めたりできるような場面を設定する。